

大阪府立千里高等学校  
平成 30 年度 第 3 回学校協議会 会議記録

○ 日時 平成 31 年 3 月 5 日 (火) 16:00~17:00

○ 会場 校長室

○ 出席者

(学校協議会委員)

和田 良彦 大阪教育大学 教授

高木 学 江坂・起業家センター代表取締役

大森 万峰子 千里高校 学校薬剤師

羽間 博子 吹田市立竹見台中学校 校長

橋本 和正 P T A 会長

大歳 哲也 後援会会長

(学校側)

校長 天野 誠 事務長 青枝 久仁子 首席 大西 千尋 進路指導部長 本間 直也

(事務局)

教頭 山下 尚紀 教育情報部長 松井 活夫 教育情報部 原田 公彦

○ 議事概要

(1) S G H および S S H の取り組み

◇ S G H 事業

- ・本校では S G H の目標を 5 つあげているが、年度ごとに 3 年間を通してどう変わっていったかが分かってきた。社会貢献への意識、国際課題への理解、共同で探究する力については 1 年生時から高まっており、3 年生でも伸びている。また、創造的提案力、英語運用能力については学年を追うごとに徐々に高まっていることがデータの分析から分かってきた。
- ・ S G H 終了後は予算がなくなるので、ニューヨーク研修など高額な予算の必要なものは実施が出来なくなるが、それ以外のものについては、予算の出所を確保し、つながりの出来たところとは予算がなくてもこれまでの取組を続けさせてもらえるなどの目途が見えてきた。

◇ S S H 事業

- ・ F S G : S S H の中心的役割を果たす生徒を育成する目的でつくったが、希望者が多くなりすぎてコアな生徒とはいえなくなってきている。
- ・ S S H 台湾研修で訪問した学校の生徒が昨年秋に来日し本校にも来たりして交流が続いているが、今後はインターネットの活用などにより、日常的な交流活動を目指していきたい。

(2) 進路指導の状況について

- ・国公立の推薦と A O の合格者が 8 名で昨年と同じ。内訳は阪大の適塾入試が昨年の 2 名から倍増し 4 名 (文学部 2, 薬学部 1, 医学部保健医療学科 1), このうち 2 名はセンター試験で 8 割に満たない生徒で、面接や高校時代の取組が評価されての合格と思われ、本校の取組の成果が表れたのではないかと考えている。
- ・私立大学では、関関同立の合格率はほぼ例年並みであり、私立大学が厳しい状況にある中で何とか維持できている。

(3) 平成 30 年度学校教育自己診断アンケート結果等について

- ・「この学校には他の学校にはない特色がある」で、特に国際文化科での評価が年々下がってきているが、

本年の入試の志願者数も国際文化科が減少している。国際文化科の特色が薄れているのではないかと  
いう危惧がある。

- ・「希望する進路を実現するための講習や補習は充実しているか」も、やや減少傾向にあるが、土曜講習の充実などで挺入れをしていきたい。
- ・「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合どう行動したらよいか知らされている」は例年より高くなっているが、これは昨年大阪北部地震によって身をもって体験したことが大きいのではないか。
- ・「豊かな心や人の生き方について考える機会がある」「人権について学ぶ機会がある」が例年になく高いが、今年 SNS において人権に関わる問題事象があり、担任や生徒指導の先生方中心に HR 等での啓発活動がなされたことが反映しているのではないか。
- ・「千里高校に入学してよかったと思っている」が大きく減少しているが、その原因を分析した上で必要な改善を行っていきたい。

#### <質疑等>

- 「千里高校に入学してよかったと思っている」「学校生活についての先生の指導は納得できる」生徒が大きく減少しているのが気になるが。
  - ・千里高校は自由な学校と思われているが、実際入学すると必ずしもそうではない。このことが影響しているのかもしれない。
  - ・成績との関係もあるのでは？ → 無記名のアンケートなので、成績との相関は分からないが、学習に関する項目とのクロス集計をすれば明らかになるかもしれない。
  - ・この 2 つの項目の結果は相関があると思われる。模試の成績でも国際文化科の 1 年生がよくない結果が出ている。入試の志願状況でも国際文化科の倍率が低いことにもつながっているのではないか。
  - ・部活の加入率が低くなっていることとも相関あると思われる。生徒指導事案も増えており、それに対する教員の指導がここ数年厳しくなっているようだ。善し悪しは別にして、このことが生徒の感覚と齟齬を生じてきているのではないか。

## 4. 協議

### <平成 31 年度学校経営計画の策定に向けて>

- 平成 30 年度の学校経営計画の評価を踏まえ、千里高校の強みも分かってきたので、「めざす学校像」をより明確にするため短い文章にした。本校は府立高校の中では随一ともいえる国際性豊かな学校であることを踏まえて、グローバルな視点で物事を考え、たくさん考えた中から一番良いものを判断し、判断したものを発信できる生徒を育てていきたいと考えている。
- 「めざす学校像」を具体化するため、中期的目標として、次の 3 本柱を立てている。
  - ・「確かな学力を育成」し、その結果として「希望の進路を実現」させる。
  - ・学力だけではなく「豊かな人間性」も育てていく。
  - ・これらをささえるため、「教員の指導力」を向上していく。
- 英語が使えるようになるには主体性と目的意識が必要であると思うが、文法や単語を覚える記憶力だけに頼った英語の力では問題がある。「グローバル」とは見えないものを見る力、すなわち想像力だと思う。目に見えるものだけを記憶できるだけの力ではなく、人の気持ちや志、何のために生きるのかななどを想像できる力を育てていく必要があるのではないか。
  - 千里の英語は 4 技能中心で、2 年生ではディベートを英語で行い、科学科でも 2 年で実験内容を英語でプレゼンできるように、1 年生では料理の作り方を英語で説明させるなどして、発表させる場面を多くするようにしている。
- 国語の授業では、自分の考えを表現することがよくあるが、国語の力がないと英語でも表現が出来ないのではないか。

- 学力だけでなく人間関係において、相手の気持ちを想像する力がなかなか育ってきていない。主体的・対話的で深い学びをするには多面的な意見を取り入れ、個人の考えをしっかりとって友人と対話することで深めていくことを、竹見台中学校では、小中一貫ということで10年間取り組んできているが、インターネットやSNSによって受け身でもどんどん情報が入ってくるので、自分で考え想像するという力が近年弱くなってきており、学力・人間力の育成が課題となっている。
- 学校教育計画を進めていくには、新しい教育課程を作らないといけないので、天野校長が率先してモデルとなる新しいカリキュラムを作ってください、教員が組織的に実践するための目標を立てて取り組んでいただきたい。